

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:平成 31 年 3月 20日

公表:平成 31年 3月 28日

事業所名 プライマリーすてっぷ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		机の配置など、使いやすく動きやすく考慮。	
	2	職員の配置数は適切である	4	3		利用者特性を踏まえて、基準以上の配置が必要な場合は増員をする。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	1		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		職員間で月1回。 2 適宜話し合っており、問題なく情報交換している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	面談や送迎時に聞く意見を、即共有し、改善策に繋げている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3		会報にトピックスとして公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3		この評価が外部評価につながっている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	研修参加の情報共有、他の研修に対する向上心を促している。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		定期面談、アセスメント等の分析を行い、全職員が計画検討に関わっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		独自のアセスメント方法を用いている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	子どもの特性により、話し合って決定。	OT、STにもアドバイスをもらう。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		一定期間後のプログラムの見直し。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	長期休暇に宿泊体験などを取り入れている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		個人の特性に合わせての個別活動を設定。季節感のある内容の集団活動を取り入れている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		職員間で当日打ち合わせて確認している。利用者担当も各々に合わせて配置。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2	支援前に振り返りも共有。	出勤していないスタッフにも必ず伝える。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		直接支援に当たったスタッフが分かりやすく簡素な記録を取っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		年2回(前期・後期)職員同士の見解を大切に、見直しをしている。	計画相談とも連携し、各利用者の誕生日にモニタリングしていくことができれば年2回に集中しなくて、ゆとりがもてるかもしれない。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	1			

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	学校への迎えの際に、学校の先生に最近の様子などを聞いている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4		相談支援員を介し、情報共有している。	現場と相談支援員との情報共有を密にする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	5	交流とまでは行かないが、図書館・児童館・体育館などでの活動はある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		5		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		気になる様子、変化が見られた時には、迅速に保護者と連絡を取り合っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3		
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		放デイの職員で難しい時には、相談事業所に繋げている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		父母会が無いので、保護者間の連携は把握していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	35	個人情報に十分注意している	6	1	記録記入時、個人名を書かないようにしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		事業所イベントの案内をコミュニティ紙に載せている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2		理解しやすいように文面にし、伝えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	3		子どもたちが利用しているときの訓練が必要かと思う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	職員ミーティングの時に確認している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2		身体拘束は原則しないが、十分に議論の上、保護者にご意見をうかがう。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		保護者から医師の指示書を提示してもらい、職員間で情報共有している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		事例を職員同士で再現して話し合い、全職員が把握するようにしている。	